

北海道医師会 第154回定時代議員会・第155回臨時代議員会



鈴木知事の祝辞



会長再選の挨拶

◆第154回定時代議員会にて、平成30年度決算を承認、次期役員・裁定委員等を選出

◆第155回臨時代議員会にて、当面の医療政策について報告と質疑

◇総務部◇

第154回定時代議員会を去る6月15日（土）、翌日の6月16日（日）に第155回臨時代議員会を、当医師会館8階会議室においてそれぞれ開催した。

冒頭、仮議長の吉田肇代議員の進行により、議事録署名人（札幌市・長谷直樹代議員、小樽市・鈴木敏夫代議員）の指名の後、議長に本間哲代議員を、新議長の進行により副議長に井門明代議員を選出した。

挨拶（長瀬会長）

第154回定時代議員会開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、毎日の診療でお疲れの上、何かとご多忙の中、代議員の先生方には全道各地よりご参集頂き有り難うございます。

また、常日頃、北海道医師会の事業運営に、ご支援、ご協力頂いておりますことに心から感謝を申し上げます。

本日の代議員会は、平成30年度の事業報告の後、平成30年度決算についてご審議を頂きます。活発なご討議を頂きますようお願い申し上げます。

私達北海道医師会執行部は、本日をもって付託を受けた2年間の役割を終えることとなります。皆様方、郡市医師会役員および会員の皆様のご協力で、無事役目を終えることが出来ました。心より感謝を申し上げます。

このあと、次期役員である会長、副会長、理事、常任理事候補者および監事、裁定委員そして欠員となる日本医師会代議員の選挙を施行致します。厳正なるご判断をお願い致します。

立候補しているメンバーは前期とほとんど変わり

ありません。

現在医師会が抱えている問題は、医師不足、偏在による地域医療の崩壊など数限りなくあります。原因は数多くあり、どれかひとつ解決すれば済むというものではありません。医師養成、配置、勤務環境整備、医師の健康保持、医療経営等一つ一つ根気よく丁寧な医師会として出来る限りの努力をしております。会員の皆様や、他の医療関係者との協働にも力を入れています。行政とも、時に厳しく対したり、協調すべきところは協調し事業を進めています。基本は道民の健康を如何に守るか、同時に医療者の生活・健康を如何に改善するかです。

本年度の事業計画および予算につきましては、既に本年3月の第153回臨時代議員会にお諮りし、ご賛同を得て、現在それに基づき事業を進めております。

本年4月に統一地方選挙が施行されました。北海道の医療の今後に関わる大変重要な選挙でした。北海道医師会の考えに沿った方々のほとんどが当選を果たしました。北海道知事は4期16年にわたり務められた高橋はるみ氏に変わり、夕張市で約10年活躍されました鈴木直道氏が、また札幌市長には前職の秋元克広氏が当選されました。鈴木知事には本日この後の懇親会および明日の代議員会でご挨拶頂く予定となっております。

また7月には参議院議員の選挙が行われます。今後の医療を進める上での極めて重要な選挙です。軽く考えないでしっかり取り組むことが大切です。

今年は、平成の天皇がご退位され、ひき続き新天皇がご即位され、年号が平成から令和に改元されました。この間、10日に及ぶ休日があり医療の混乱が

生じないか危惧されましたが、まったく杞憂で、郡市医師会や会員の皆様の適切な対応により何事もなく無事過ごすことが出来、皆様の働きに対して感謝を申し上げます。

平成の時代は、リーマンショックに始まる長期にわたる経済不調の日々が続きました。自民政権から民主党への政権交代もありました。この間、悲惨な地域的な紛争はありましたが、世界的戦争はありませんでした。

世界情勢および国内情勢は多くの困難な問題を抱えておりますが、戦争のない平和な世界が続いて行くことを願っています。

一昨年米国で大統領選挙が行われ、大方の予想を覆し、トランプ大統領が誕生しました。極めて鮮明な自国中心主義、ナショナリズムを掲げ、世界はポピュリズムが勢いを増しています。

米中の覇権争い、米国と北朝鮮の対立が続き、世界を巻き込む悲惨なことになるまいよう、果たす日本の役割が重要な時にあります。

昨年度は、かつて経験したことのない北海道内陸部、胆振東部地域の大地震があり、その後の全道域に及ぶ停電によるブラックアウトに見舞われ大混乱になりました。会員の皆様の沉着、素早い対応により医療的被害は未然に防がれ事なきを得たことは何よりでした。日本医師会のJMATの組織替で先遣JMAT制度が採用され、この時初めて北海道で先遣JMATが派遣され評価されました。近年、際立つ天災地変に対しての備え、心がけの必要性を強く感じました。

北海道医師会でも、地震等災害時に迅速的確な対応が出来るようマニュアルを作成しています。人工呼吸器装着の患者さんや、人工透析に頼っている患者さんなど、生命を脅かされ、心配しました。日常の備えの必要性を痛感しました。

医学、医療の著しい進歩発展、少子高齢社会の急速な進行に、経済の裏打ちが間に合わず、医療保険制度を含めた社会保障制度の今後が心配されます。受診時定額費用負担で頻用されている低価格薬剤費自己負担等の考えが再燃しないか気になります。

現在の優れた医療保険制度と国民への医療提供体制を持続させるために、医師会の力が必要とされています。医師不足解消のために医師養成増が図られ、医師数は確かに増していますが、医師が個々にではなく、まとまり力を出すことが何をおいても必要です。会員増加を図り、医師会組織を増強するために会員の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

本日と明日の2日にわたっての北海道医師会の代議員会になりますが、宜しくお願い申し上げます。

◇

平成30年度事業報告の後、議案第3号：平成30年度決算に関する件に入り、公益目的支出計画実施報告および監査報告を得た後、決算委員会に審議を付

託した。決算委員会終了まで暫時休憩の後、岡田決算委員長長の報告を受け、平成30年度の決算が承認された。

その後、議案第4号から議案第10号に関する役員等の選挙の件、および長瀬会長から提案された当会所属の日本医師会副会長・中川俊男氏を当会顧問としたい旨を承認し、第154回定時代議員会を終了した。(役員等の選挙結果は、前号掲載の「北海道医師会告示」のとおり)

翌日に開催された第155回臨時代議員会は、まず再任された長瀬会長から、前日の理事会にて会長・副会長・常任理事等の候補者がそれぞれ選定されたとの結果報告と、新任役員紹介の挨拶があった。

その後、当面の医療政策に関する報告では、「総論」(笹本常任理事)、「介護医療院の現状」(水谷常任理事)、「産業医の新たな役割」(深澤副会長)、「外来医療計画」(藤原副会長)、「医師確保計画」(笹本常任理事)についてそれぞれ詳細に説明がなされた。

続いて、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁が行われた。

◇代表質問◇

1. 鈴木 敏 夫 代議員 (後志ブロック)
「保険医療機関等及び保険医等の指導及び監査における高点数医療機関選定について」
(答弁者：橋本常任理事)
2. 白 崎 修 一 代議員 (中央ブロック)
「高額医薬品の費用対効果評価による保険収載の考え方について」
(答弁者：橋本常任理事)
3. 渋谷 好 孝 代議員 (道南ブロック)
「児童虐待の早期発見に向けての対応について」
(答弁者：三戸常任理事)
4. 長谷部 千登美 代議員 (道北ブロック)
「北海道医師会における若手会員数増加をめざした対策に関して」
(答弁者：藤井常任理事)

◇一般質問◇

1. 加 藤 文 博 代議員 (札幌市)
「控除対象外消費税問題について」
(答弁者：岡部常任理事)
2. 末 岡 裕 文 代議員 (札幌市)
「外国人診療にかかわる医療費未払い問題について」
(答弁者：伊藤常任理事)
3. 小 原 裕 一 郎 代議員 (札幌市)
「改正健保法に伴うマイナンバーカードの保険証利用について」
(答弁者：藤原副会長)
4. 枝 村 正 人 代議員 (札幌市)
「新生児聴覚検査の公費助成について」
(答弁者：三戸常任理事)

5. 立花 啓 代議員（札幌市）
「医師偏在問題の新たな視点について」
（答弁者：笹本常任理事）

◇
〈質疑応答を含めた議決事項については、順次当
会ホームページに掲載予定〉

最後に、長瀬会長より閉会の挨拶が行われ本代議
員会の全日程を終了した。

